事業番号	4

平成24年度事業評価シート（平成23年度事業の評価）

1. 事業の概要

事業名	姉妹都市交流事業　『ジェラルトン交流事業』				担当課	企画政策課	
事業期間	開始年度	平成４年度　～	終了予定年度	―	担当係	企画政策係	
総合計画	めざすまちの姿	１　ひとが育つまち					
	目標	⑤　多文化共生を推進する（国際交流）					
	成果指標	国際性豊かな視野を身につけるための環境づくりが進んでいると感じる市民の割合	中間目標（H27）	10%	最終目標（H32）	15%	
予算区分	一般会計	２款　総務費	１項　総務管理費	５目　企画費			
	細事業	姉妹都市交流事業					
位置づけ	関連計画						
	根拠法令						
実施主体	■ 市　・　□ 国　・　□ 県　・　□ その他						
実施方法	□ 市が直接実施・運営　■ 一部又は全部委託　□ 指定管理　□ その他（						
対象（誰のため）	□ 全市民　■ 特定の市民　□ 特定の団体　□ その他	市内在住の中高生でジェラルトン交流希望者					
事業の目的（何のため）	次世代を担う中高校生が国際交流を通じ、国際性豊かな広い視野を身に付けるための環境づくりを進める						
内容（概要）	○姉妹都市であるオーストラリア・ジェラルトン広域市との国際交流事業 【派遣】 次世代を担う中高校生をジェラルトン広域市に派遣し、ホームステイによる外国人家庭での生活や現地の中高生との交流を通じ、国際感覚豊かな青少年の育成と国際交流の推進及び英語力の向上を図る。 ・ジェラルトン広域市との姉妹都市交流（相互派遣・受入）に関する調整 ・ジェラルトン広域市への訪問の随行 【受入】 ジェラルトン・グレノフ豪日教会員及び学生の希望者が訪日する際に、ホームステイ先の募集、市内学校での交流に関する調整、日本文化の紹介を行う。 ※平成10年に旧新居町と旧ジェラルトン市とが姉妹都市宣言を締結し、隔年で相互訪問を行っている。合併後も湖西市事業として継続実施となった。						
これまでの改善・見直しの状況	○ジェラルトン市と（旧新居町）との姉妹友好都市締結までの交流経過等 ① 平成3年7月　第3次新居町総合計画に海外との姉妹都市提携が検討項目として盛り込まれる。 ② 平成4年　姉妹都市選定作業が進められ、オーストラリア西オートストラリア州ジェラルトン市を候補地として、新居町長を団長とする調査団がジェラルトン市を訪問する。 ② 平成5年6月　新居町が民間サイドへ姉妹提携に向けての協力を依頼し、新居日本オーストラリア協会が設立された。（協会事務局は新居町企画財政課に置く） ③ 平成6年9月　初めてジェラルトン市から19名の中高生が新居町を訪問。（ホームステイ） これ以降、ジェラルトン市と新居町との中高生による相互交流が始まる。 ④ 平成10年9月29日　旧新居町とジェラルトン市が姉妹都市提携。 （ジェラルトン市は２度合併し、現在はジェラルトン広域市） ○H6～H22交流実績（延べ人数）　ジェラルトン市からの生徒等（中高生、訪町団）の受入者数　88名 新居町からジェラルトン市へ訪問者数　130名						

2. コスト

（単位：千円）

		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成23年度事業費	
事業費	予算	245	645	784	（内訳）	
	決算	45	1,344	→	物件費	
財源内訳	国庫支出金				・旅費	941
	県支出金				・委託料	339
	地方債				・有料道路交通料代	26
	その他		1,280	（市町村振興協会）751	・通信運搬費等	38
	一般財源	45	64	33		1,344
職員人件費		―	1,284	1,281	人工	0.2 人

3. 事業の評価

事業の実施状況

	内容	単位		平成22年度	平成23年度	平成24年度	達成率
活動指標	派遣学生数	人	目標	—	20	—	75%
			実績	—	15		
	受入家庭数	件	目標	—	—	4	—
			実績	—	—		
			目標				
			実績				

実績・改善	平成23度 活動内容	ジェラルトン広域市親善訪問団派遣事業 23年度は、ジェラルトン広域市へ訪問団を派遣した。中高生は、ホームステイを通し異文化への理解を深めた。また、市長及び議員等は、ジェラルトン広域市幹部と面会し、今後の交流の継続について話し合うことができた。10月には、報告会を実施し、事業の成果を参加者から報告してもらった。 ・派遣期間　平成23年８月16日(火)～24日(水) ・参加人数　21名（うち中学生11名、高校生4名、引率ボランティア兼通訳2名、市長、議員2名、職員1名） ・報告会　　平成23年10月22日(土)　13時30分～　場所：おぼと3階研修室、入場者：約40名 ※広報、市のホームページ、また、湖西高校生、新居高校生及び市内中学生全員に募集案内を配布し募集した。
	課題・問題点 となった事項	・実施人員10名以上は確保したが、募集定員20名には達しなかった。 （参加人数により１人当たりの旅費に変動があったため、できるだけ学生等参加費（自己負担）の軽減を図ることを考慮した。） ・湖西・日本オーストラリア協会（日豪協会）の役割（協力）について。
	どう対処したか	・市議会議員から参加者を募り（2名参加）、20名以上を確保した。 ・市が主体となり事業を実施し、日豪協会には今までの経験を生かし、勉強会などに出席してもらった。
	改善点	効果額 H24-H23 （千円）

自己評価	事業目的の 達成状況	・まずは、何年か滞っていた交流事業を実施したい。ということが第一の目標であったので、この点では目標を達成できた。また、参加者全員から大変良かったという評価をいただいた。			
	※必要性 事業を廃止・休止したときの影響	・市が実施することで、参加者及び保護者は安心感が強く参加させやすいということはあるが、仮に廃止しても、今では民間業者が多くの海外留学やホームステイ体験を実施しているので、絶対的な必要性はないかもしれない。ただし、ジェラルトン広域市に限定すると既製のツアーではなかなか行くことは出来ない。			
	判定	B　改善その他	事業内容(手段)の見直しが必要	事業主体	市
	判定理由	交流事業が始まった当時から比べ、海外留学などは一層身近なものになってきている。今後の交流内容について検討する必要がある。			
	今後の方向性	日豪協会については、旧新居町時代の発足当時の役割は、終えているように感じる。 国際感覚を養うのであれば、他の諸外国への派遣なども考えられる。 交流を継続する場合、中高生だけの交流でいいのか。またその場合、市が実施すべきなのか等の検討。			

参加者の声 Voice of Students

▲竹内君と、ホストファミリーで同い年のベン君。歓迎会で初対面後、すぐに打ち解けました。

竹内優紀 君（岡崎中学校２年）

ホームステイに参加する前は英語での日常会話が心配でしたが、ホストファミリーや現地の学校の同級生に自分から積極的に話し掛けるようにしました。相手も一生懸命理解しようと努力してくれて、コミュニケーションを取ることができ、とてもうれしかったです。

週末はホストファミリーと一緒に、ファミリーの友人が国から許可を得て飼育しているカンガルーの子どもにミルクをあげたり、川や丘へピクニックに出掛けたりしました。ベンとはずっと一緒にいて、とても仲良くなり日本に行きたいと言ってくれました。もしチャンスがあるなら、ぜひ家に来てほしいです。

オーストラリアでは自然を大切にし、また動物の命を絶やさぬよう努力していることを学びました。出発する前以上に、命の大切さを考え、弱者にやさしく接することのできる人間になろうと決心しました。

内田早紀さん（浜松学芸高校１年）

以前、ニュージーランドにホームステイしたことがありますが、もう一度自分の英語力を試してみたいと思い参加しました。ジェラルトンでは、ホストファミリーが温かく迎えてくれたほか、誰もが親切でした。

現地の学校にも行きましたが、とても自由な校風のもと、みんな元気で異なる学年同士でもとても仲が良かったのが印象的でした。私の通う学校も同じ中高一貫校ですので、こうした雰囲気になればといいなと思いました。

▲内田さんとホストファミリー。右上がお母さんで、その３人の子どもたちは大きく見えるけれど、みんな内田さんより年下（！）とのこと。

▲ジェラルトン広域市内の動物園。カンガルーにエサをあげることができます。

▲荒野の墓標ピナクルズの奇岩。太古の「原生林」の痕跡で、堆積した奇岩（石灰岩層）だけが残ったそうです。

▲ワイルドフラワーの一つ「ジェラルトンワックス」。街道沿いに四季折々、様々な花を見ることができます。

これまでに、湖西日本オーストラリア協会が主体となって、お互いの訪問団や子どもたちのホームステイ受け入れ、産業まつり「あらいじゃん」でジェラルトン名物のワインやロブスターの販売などが行われてきました。新居町からの訪問は、平成17年を最後に途絶えていましたが、本年度５月に募集したところ、市内在住の中高生15人が応募。市長を団長とする21人の訪問団が、８月16日から９日間の日程でジェラルトンを訪れました。

ジェラルトンはオーストラリアの西海岸、インド洋に面した都市。鉱物資源を積み出したり、ロブスター漁を行ったりする港町として発展してきました。気候は温暖で、サーフィン、ダイビングスポットとして国際的に知られる透明度の高い美しい海と砂浜、近郊には『荒野の墓標』と呼ばれる奇岩群、野生の花を見ることができるワイルドフラワー街道などもあり、雄大な自然を売りにした観光も盛んです。

特集 ひとをつなぎ、まちをつくる

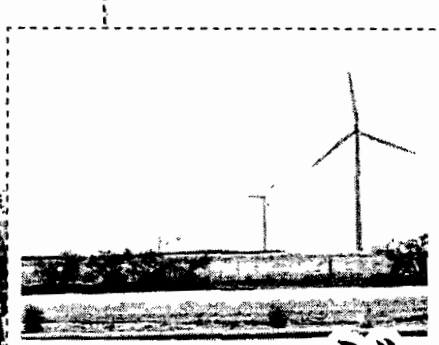
～国、地域を越えた交流を通して～

▲「世界で一番美しい都市」とも呼ばれる西オーストラリア州最大の都市パースで、記念写真。

県や市町村などの自治体同士は、文化、芸術、技術など幅広い分野で交流活動を行っています。

湖西市でも、お互いの良い所をまちづくりに生かすため、旧新居町時代に友好都市提携を結んでいたオーストラリアのジェラルトン広域市、長野県の木曽町と、子どもたちの訪問や歓迎、希望者のホームステイなどを通して、国、地域を超えた友好関係を深めています。

▲街中を走る２階建てバス



◀浜風を利用した風力発電も盛ん

▲道路標識

ジェラルトン広域市との交流

平成３年（１９９１）、面積や人口・気候・海岸風景など旧新居町との類似点が多く、日本の自治体と交流を希望するジェラルトンとの交流が始まりました。

新居町・ジェラルトン市との姉妹都市提携の経過について

平成3年7月、第3次新居町総合計画（平成3年度～12年度、生涯学習で緑豊かな福祉文化都市－将来像－、基本計画第3章ゆとりと生きがいの地域社会、第2多様な社会活動の促進、5国際性豊かな地域づくり）に海外との姉妹都市提携の検討が織り込まれ、姉妹都市の選定作業が始まった。
（海外の人々との意思の疎通を図り、文化や芸術、あるいは経済などの交流を通して、その中からまちづくりや人づくりに役立つ無限のエネルギーを得る。）

1．姉妹都市候補地選定の条件として

① 英語圏の国であること。
② 距離があまり遠くないこと。
③ 国際空港の近くであること。
④ 渡航の費用があまりかからないこと。
⑤ 時差があまりないこと。
⑥ 政情が安定している国であること。
⑦ 治安のよい国であること。
⑧ 気候風土が類似または対照的であること。
⑨ 人口規模、財政規模等が同等であること。

以上のことから、新居町としてはオーストラリアを中心に、海外姉妹都市候補地を選定していくこととなった。

2．ジェラルトン市との提携に向けて

候補地の選定を検討している折、静岡県日豪協会会長と知り合うことができ、オーストラリア大使館、また、西オーストラリア州にある豪日協会会長などのご協力をいただき、オーストラリア西海岸、パース市の北方約 400kmにあるジェラルトン市を候補地として推薦していただくことができた。

ジェラルトン市は、インド洋に面した町で、人口約 2 万人、面積 30K㎡で、新居町と大差なく、英語を常用語としている。時差も余りなく、政情も安定しており治安もよいようであった。ジェラルトンには空港があり、成田から直行便がいっている西オーストラリア州の州都パースから空路1時間足らずと海外姉妹都市としての条件を満たしていた。

平成5年には、新居・日本オーストラリア協会が設立され、それ以来ジェラルトン市と新居町は、日豪・豪日協会を中心として相互に2回の中高生の交流を行い、7年の経過を経て姉妹都市提携の調印をした。

3．ジェラルトン市との交流経過

平成6年9月ジェラルトン市から19名の中学生が新居町を訪問。

以来、平成22年度までジェラルトン市から88名の中高生が新居町でホームステイをし、新居町からは130名の中高生がジェラルトン市を訪問している。